

# 大阪湾再生行動計画（第三期）検討有識者会議 第1回 議事概要 （発言順）

## ① 議事次第

日時：令和5年12月27日（水） 13:00～14:30

場所：近畿地方整備局 5階 共用会議室3（WEB会議併用）

- 議事：1. 開会、挨拶  
2. 出席者紹介  
3. 規約について  
4. 座長選出  
5. 大阪湾再生行動計画（第三期）骨子について  
6. 策定に向けたスケジュールについて  
7. 閉会

出席者（敬称略）：

（委員）岩井克巳（WEB）、大塚耕司（対面）、日下部敬之（WEB）、桑江朝比呂（WEB）、  
重松孝昌（対面）、中西敬（WEB）、林美鶴（WEB）、安田誠宏（対面）

（事務局）

近畿地方整備局：小島優、児玉孝司、大國喜郎、藤井慶一朗、小林秀禎、女鹿田哲也

## ② 議事概要

### 1. 座長選出

- ・岩井委員より大塚委員が座長に推薦され、全会一致で大塚委員を座長として選出した。

### 2. 大阪湾再生行動計画（第三期）骨子について（資料2、資料3）

#### 【桑江委員】

- ・資料2 p.5 「形態別窒素・リン」について、無機態窒素濃度が直近5年で増加しているように見えるので理由を確認しておくこと。

#### 【事務局】

- ・確認する。

#### 【桑江委員】

- ・資料2 p.10 「整備面積（藻場・干潟等）」について、藻場や緩傾斜護岸の整備面積に関西国際空港は入っていないのか。
- ・関西国際空港は、大阪湾再生行動計画の中で様々な取り組みができる場所だと考えている。

#### 【事務局】

- ・現在、関西国際空港は大阪湾再生推進会議の構成機関ではないので整備面積には入れていない。今後については連携等を検討する。

#### 【日下部委員】

- ・資料 3 p.1 「1.はじめに」について、「大阪湾再生水質一斉調査」や「大阪湾生き物一斉調査」の発祥の湾である、といった記載がある。これは全国で行われている「水質一斉調査」の発祥の湾である、という意味であれば、「全国ではじめて水質一斉調査が行われた～」等に修正すること。
- ・資料 3 p.2 「(1) これまでの状況の変化」について、プラスチックごみについての記載があるので、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」も追記したほうがよい。
- ・資料 3 p.4 「(3)ネットワークの充実・強化」について、「生態系・物質を考慮した～」とあるが、「物質」ではなく「物質循環」の方が適切ではないか。
- ・資料 3 p.5 「(3)目標要素」について、美しい「魚庭（なにわ）の海」の要素である「水辺を快適に散策できる海（湾奥部）」、「水に快適に触れ合える海（湾口部、湾央部）」は、文言だけを見ると親しみやすい「魚庭（なにわ）の海」の要素であるように感じるため、適切な表現に再考したほうがよいのではないか。

#### 【事務局】

- ・資料 3 p.1 「1.はじめに」について、ご指摘箇所を修正する。
- ・資料 3 p.2 「(1) これまでの状況の変化」について、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の追記を検討する。
- ・資料 3 p.4 「(3)ネットワークの充実・強化」について、ご指摘箇所を修正する。
- ・資料 3 p.5 「(3)目標要素」について、施策に応じた内容で、表現を検討する。

#### 【中西委員】

- ・資料 2 p.6 「ごみ回収量・回収活動参加者数」について、第一期計画期間から第二期計画期間で漂着ごみや海底ごみが減少しているのは何故か。また、ごみ回収量を指標とする場合、ごみ回収量が増えるということは、努力量的なポジティブな捉え方もできるが、ごみが増えているといったネガティブな捉え方もできるので、取り扱いが難しく、評価時には注意が必要である。
- ・資料 3 p.2 「これまでの状況の変化」について、「マイクロプラスチックの深刻化」という文言があるが、適切ではないので修正すること。

#### 【事務局】

- ・資料 2 p.6 「ごみ回収量・回収活動参加者数」について、第一期計画期間から第二期計画期間でごみの集計対象が変わっているもの等もあると思うので、確認して、必要であれば注書きを追記する等、対応する。
- ・資料 3 p.2 「これまでの状況の変化」について、ご指摘箇所を修正する。

#### 【中西委員】

- ・資料 3 p.6 「目標要素・施策・評価指標の体系」の施策に、「ブルーカーボンの拡大」という文言があるが、施策としては「ブルーカーボン生態系」等の文言の方が適切ではないか。
- ・資料 3 p.巻-5 「社会経済情勢の変化」の、「インフラ等の老朽化」と「感染症等の影響」の項目において、現状と課題が異なるものが記載されているのではないか。

#### 【岩井委員】

- ・資料 3 p.6 「目標要素・施策・評価指標の体系」の施策「ブルーカーボンの拡大」は、生物多様性を確保するといった観点であれば、「OECD の拡大」でもよいのではないか。その上で評価指標としてブルーカーボン生態系面積等があげられる方が、流れが分かりやすいのではないか。

#### 【事務局】

- ・資料 3 p.6 「目標要素・施策・評価指標の体系」の施策「ブルーカーボンの拡大」についてのご指摘、ご意見について、「ブルーカーボンの拡大」という文言は見直し、「OECD の拡大」の記載について検討する。
- ・資料 3 p. 巻-5 「社会経済情勢の変化」の、「インフラ等の老朽化」と「感染症等の影響」の項目について、修正する。

#### 【重松委員】

- ・資料 3 「I 背景」について、p.1 「1.はじめに」で主張したいことが明確になっていない。また、p.2 「これまでの状況の変化」が、「1.はじめに」とどう対応しているのか、またどう区別されているかが明確でない。内容を整理して一つにまとめてもよいのではないか。

#### 【林委員】

- ・資料 3 目次構成について「2.大阪湾再生における今後の展開」の中に、「(1)これまでの状況の変化」と「(2)今後の展開」があると、第三期計画がどこに位置づけられるか分かりづらい。

#### 【重松委員】

- ・資料 3 p.4 「(2)意義」の意味が分かりづらい。大阪湾再生の意義と言ってよいのか。第三期計画の施策と重複するため混乱するのではないか。
- ・資料 3 p.5 「2)全体目標」について「次世代に引き継げる大阪湾」とあるが、「引き継げる」とした意図やメッセージ、具体的なニュアンスを明記したほうがよい。
- ・資料 3 p.7 「(6)目標の設定」について定量評価を行うと記載しているが、目標値が設定できていない。定量評価を実施するのかどうかを含めて検討したほうがよい。

#### 【事務局】

- ・資料 3 「I 背景」について、p.1 「1.はじめに」と p.2 「これまでの状況の変化」について、一つにまとめる等検討する。
- ・資料 3 p.4 「(2)意義」の使い方を検討する。
- ・資料 3 p.5 「2)全体目標」について「次世代に引き継げる大阪湾」の意図を明確にして具体的に何をするのか明記する。
- ・資料 3 p.7 「(6)目標の設定」について、できる限り定量的な目標は示していく方向で検討する。ただし定量的に評価できない項目もあるので、その場合は定性的な評価をしていく。

#### 【桑江委員】

- ・資料 3 p.7 「(6)目標の設定」について定量評価について、生物共生型構造物やブルーインフラは定量的な評価が可能だと考える。ブルーインフラについては、港湾の施設の技術上の基準で今後は標準化していく動きもあるので取り入れやすいのではないか。ブ

ルーカーボンについては、二酸化炭素吸収量、J ブルークレジットの認証サイト数、ブルーカーボン生態系の面積等、様々な評価が考えられる。

**【岩井委員】**

- ・生態系を保全した面積として、OECM で認証されている面積も評価するのもよいのではないか。

**【中西委員】**

- ・資料 3 「1. はじめに」については、資料 2 の最初のページの第一期行動計画から第三期行動計画までの計画策定にあたっての変遷を整理されているので、それを簡潔に文章とすればわかりやすいのではないかと。
- ・資料 3 p.3 「(2) 今後の展開」の、防災に関する内容について、大阪湾再生行動計画では取り扱わないとする旨の記載には違和感がある。計画を見直す必要までではないにしても、書きぶりを「〇〇と連携しつつ防災にも配慮した大阪湾の在り方について検討していく」等に修正した方がよい。

**【事務局】**

- ・資料 3 「1. はじめに」について、資料 2 の最初のページの内容等も参考にして修正する。
- ・資料 3 p.3 「(2) 今後の展開」の、防災に関する内容について、提案いただいた文言のような形に修正する方向で検討する。

**【日下部委員】**

- ・資料 3 p.5 「2) 全体目標」について「森・川・里・都市・海等のネットワーク～」とあるが、「等」は何を指しているのか。目標なので必要でなければ削除したほうがよい。
- ・資料 3 p.6 「目標要素・施策・評価指標の体系」について、美しい「魚庭（なにわ）の海」に対する施策は、現在は水質についての施策が主であるが、今後は水辺空間のような景観という観点も重要になってくるため、このような視点も入れてもらいたい。

**【事務局】**

- ・資料 3 p.5 「2) 全体目標」について、第二期計画でも「等」が入っておりそのまま引き継いでいる。「等」が入った経緯を確認し、必要でなければ削除したい。
- ・資料 3 p.6 「目標要素・施策・評価指標の体系」について、景観はこれまであまり出てこなかった話題なので、どう扱うか事務局で検討する。

**【安田委員】**

- ・資料 2 p.6 「ごみ回収量・回収活動参加者数」について、海域でのごみ回収参加者数が近年減少していることが気になる。ごみが減っているのか、ふれ合いが減っているのか。このままでは第三期計画ですますふれ合いが減るのではないかと。
- ・また、本来は、ごみの量そのものを減らすことが目標であるはずなのに、ごみの回収量を増やすこと、ごみ回収活動の参加者数を増やすことを目標（指標）にすると、どう評価すればいいかが難しいのと、本末転倒になるのではないかと。
- ・資料 2 p.7 「整備面積、整備延長（親水施設）」は、ブルーインフラ、グリーンインフラ、人を集める機能のある親水施設のいずれなのかを分離できていないような印象を受

ける。

- ・資料 3 p.3 「社会情勢における現状と課題」の表について、現状のことを記載しているのか、第三期計画の課題を記載しているのかを整理した方がよい。また、「東京一極集中」や「新型コロナウイルス感染症の拡大」については、大阪湾再生行動計画との繋がりが見えづらく、社会情勢として記載するにはふさわしくないのではないか。

#### 【事務局】

- ・資料 2 p.6 「ごみ回収量・回収活動参加者数」について、状況を確認する。
- ・資料 2 p.7 「整備面積、整備延長（親水施設）」について、対応を検討する。
- ・資料 3 p.3 「社会情勢における現状と課題」について、記載内容を見直す。

#### 【林委員】

- ・資料 3 巻末資料と本文との対応が分からない。例えば本文 p.3 の表に対し、巻末資料 p. 巻-5 の表は、項目がさらに詳しく記載されているが、どのような関係なのか。また、p. 巻-7、8 ページには、防災関係の項目が並んでおり、そもそも巻末資料はどのような位置づけなのかがわからない。

#### 【事務局】

- ・資料 3 p.3 と巻末資料 p. 巻-5 の「社会情勢における現状と課題」については、記載内容を見直す。

#### 【大塚座長】

- ・資料 3 p.6 「目標要素・施策・評価指標の体系」について、豊かな「魚庭（なにわ）の海」では豊富な海産物に関する記載もあるため、漁獲に関する何等かの指標を入れるように考慮してもらいたい。

#### 【事務局】

- ・資料 3 p.6 「目標要素・施策・評価指標の体系」について、評価指標への追加を検討する。

#### 【重松委員】

- ・第三期計画の次の 10 年間で何をするか、これを考えるにあたって長期的なビジョンを持つことが重要である。防災とは切っても切れない関係があり、環境が地球規模で変わってきている。地球規模の環境の推移を想定しつつ、第三期計画で何をすべきかを考える必要があると考える。
- ・資料 3 p.7 「6) 目標の設定」について、可能な限り定量的な評価を実施することだが、環境はドラスティックには動かない部分もある。環境改善のための活動を目標とすることも考えられる。
- ・海の景観を考える際には、海だけではなく沿岸域も一体として考えることが重要となってくるので、陸域での活動にも着目する必要があるとでてくる。また、美しく、豊かな海の結果として親しみやすい海につながるため、その考えを念頭において文章等を調整してもらいたい。

#### 【中西委員】

- ・第三期計画では多様な主体や世代の参画・連携を打ち出しているが、そのためには大阪湾再生行動計画を改めて市民に向けて発信する必要がある。そこで、第三期計画のアピールポイントを簡潔に説明する資料が必要になるのではないか。そのような資料があれば、来年2月19日に開催される海の再生全国会議等でも、第三期計画をよりアピールすることができる。

**【事務局】**

- ・いただいた意見を参考に、検討する。

**3. 策定に向けたスケジュールについて**

(質疑なし)

以上